

中之沢山

(冠字番号 館 第9号)

成果 X=-222808.553m
Y=-82008.403m
標高 694.24m

世界測地系「測地成果 2011」

登山日:2016年5月8日(日)

大和工営一等三角点の会

点	選点	明治 24 年 9 月 13 日	選点者	館 潔彦
の	造標	昭和 61 年 6 月 10 日	造標者	Ⓐ 大坂 進
記	埋標	明治 25 年 10 月 9 日	埋標者	高井鷹三
抜	観測	平成 8 年 9 月 12 日	観測者	Ⓐ 西野雄一郎
粹	(備考) 昭和 61 年 5 月 29 日柱石更新、一次基準点測量			
所在 山形県西置賜郡飯豊町大字高峰字柴倉 4225 番地 1				

登山行程 : 駐車地点 (9:50) 中之沢山 (11:05/11:40) 駐車地点 (12:30)

リベンジ? 「中之沢山」登山 !!

「中之沢山」は一等三角点の点名で、山名は「出ヶ峰」となっている。このように三角点名と山の名前が違うのは『一等三角点総覧』（日本測量協会発行）によると山形県には8点あるという。今回はその「中之沢山」編である。

昨年の8月、大洞山に登頂し、その日の午後に中之沢山に来たのだが、里山の暑さと、山頂部に登山道が無く藪漕ぎとなり、加えて余裕のなさで「あせり」とで、三角点の山頂は断念した。

今回は再度の挑戦だ。メンバーは新しいゲスト2名を迎え5名で向かう。何でもない里山で、登行は1時間30分だが、昨年「撤退」した三角点の山への「リベンジ登山」となった。



立派な林道が整備・・

身支度を調べて下って行くとT字路になる。昨年来たときは、この箇所は工事中であったが、広々とした立派な林道になっていた。

そんな道を歩き、左にカーブする処を上がると、平坦な広場になっていた。直進する道は手入れされていたが、ここで道は分岐する。



「運命」の分かれ道??・・

前回はその直進の道を進んでしまった、少し藪になっているが、左手にも林道が延びていて分岐点になっていたのだ。地形図を見ながら歩けば防げたのだろうが、真夏の里山でその判断能力を欠いてしまったようだった。

林道から尾根に取り付く

標高 600m 付近の急坂を登り切ると視界が開てきた。遠くに吾妻連峰が残雪に輝いていた。

林道に残雪が残っている地点から尾根に取りつくことにした。芽吹いたばかりのブナの緑がやわらかく目に映る。そのブナ林を登る。

尾根筋は踏み跡もなく、藪漕ぎとなった。はじめは笹混じりが、柴の混じる藪と変化していった。それでも 20 分程度で三角点に到着した。



遠くには吾妻連峰が残雪に輝く・・・



新緑のブナ林の風に癒やされて・・・



藪の尾根道を 20 分程歩き・・・

2年越しの三角点と対面・・・

点の記の記録では三角点の柱石が昭和 61 年に更新されているが、「御影石」（花崗岩）ではなかった。初参加の山ガールからの差入れの「ダンゴ」で乾杯？をして初登頂を祝った。

山頂は山菜の「タラの芽」が旬を迎えていて遠くには朝日連峰や、次に登頂をめざす「三鉢山」らしき山も確認できた。

山頂で昼食をとり、30 分の滞在で下山した。



2年越しの「三角点」とご対面した・・・



三角点柱石は 30 年前に更新された



今が旬のタラの芽と・・・

三鉢山？

遠くには朝日連峰が望める・・・